科目名	健康回復を支える看護Ⅲ （薬物療法と看護）	対象学年・時期	2年・後期
講師	非常勤講師及び専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	医療の現場では、看護師が患者に直接与薬することが多い。また、在宅医療の推進により、患者が正しく服薬管理できるように適切な服薬指導を行うことが求められる。「臨床薬理学」で学んだ基礎知識を基に、薬物療法の特徴と、対象に及ぼす影響（剤形と投与経路、副作用、ハイリスク患者）を理解し、必要な看護を学ぶ。がん患者に対する化学療法についても医療施設内での看護に限らず、外来で化学療法を受けながら日常生活を送る対象に必要な看護を学ぶことは重要である。また、地域で薬物治療を行いながら最良の健康状態を維持し、自分らしい暮らしを続けるために薬物の自己管理や服薬管理に向けた支援を学ぶことが必要である。対象の特徴に合わせた服薬支援の方法についてはセルフケア、自己効力の観点から学んで欲しい。		
授業形態	講義・グループワーク・PBL		
学習目標	１、薬物の剤形とその特徴に応じた看護がわかる ２、ハイリスク患者に対する看護がわかる ３、対象に応じた自己管理のための指導方法がわかる ４、服薬支援における援助の視点がわかる ５、がん化学療法における看護の特徴がわかる ６、薬物管理における支援がわかる		
授業計画	1.薬物療法と看護の基礎知識　全７回　講義・グループワーク ①薬物の体内動態 ②薬物療法における看護師の役割・ハイリスク患者の看護 ③経口薬投与の看護 ④注射薬投与時の看護 ⑤外用薬投与時の看護 ２．対象に応じた自己管理　全５回 ①妊娠中・授乳中の薬物療法と看護　１回　講義 ②在宅での薬物管理　１回　講義 内服管理(連携) ③高齢者の服薬管理とリスクマネジメント　１回　講義 多剤併用 ④薬物療法をうける子どもと家族　１回　講義 発達段階に応じた看護 薬物治療前の説明 内服方法の工夫 ⑤精神障害者と服薬管理に向けた支援　１回　講義 薬に対する患者の思い 3.がん化学療法を受ける患者の看護　認定看護師　２回　講義 癌性疼痛管理　外来治療を含む 終講試験　１回		

使用テキスト	・系統看護学講座専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進３「薬理学」第 14 版　吉岡光弘著　医学書院　他、随時提示する
事前・事後学修	臨床薬理学で使用した資料は授業時持参ください。
評価基準および評価方法	筆記試験で評価する
備考	